

春日部地区浦高会の誕生と転機！

●私の会員スピーチ・その2

9月2日の春日部地区浦高会で行った会員スピーチ「同窓会にどっぷり浸かって17年」の続きです。

◇ ◇

2. 先輩たちの熱意で春日部地区浦高会が誕生

◆ 浦高創立百周年の動きを受けて

私の人生縮図はこのくらいにさせていただき、本題の春日部地区浦高会誕生の話に移りたいと思います。今回、この資料を作るに当たって過去の総会資料や「喫茶去」を読み直してみると、いろいろなことが思い出せました。

春日部地区浦高会の誕生に当たって、4ページの中段にありますのが、2001年10月の設立総会資料です。地域職域同窓会設立の動きは、母校浦高創立百周年の動きを受けてのところが多そうです。

春日部地区も、同窓会長の高橋様、当時・埼玉新聞社長や浦和麗和会会長の星野様、当時・さきたま出版会社社長など多くの方々からの要請があって、17番目の地域職域同窓会として設立したことが分かります。その時に70名の賛同者、設立総会にはご来賓9名、会員33名の出席者がありました。

◆なぜ、春日部地区なのか？

地域同窓会を作るに当たって、初代事務局長の三輪さん(16回)、副会長の鳥井さん(11回)、会計の田村さん(16回)が中心となって対象エリアを検討しました。その中で、高校23回卒までは野田市からの越境入学者がいて、同じ東武野田線で浦高に通った仲ということもあり、何としても野田市の皆さんにも入ってもらおうということで、「春日部地区」という広いエリアを設定してスタートしました。

◆設立総会

設立総会の記録は、6ページになります。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

◇ 現在の地域職域同窓会の位置図

埼玉県市町村地図

◆地域職域同窓会 (27地域職域)

(1)浦和離和会 (2)大宮浦高会 (3)与野浦高会 (4)上尾浦高離和会 (5)県立浦高同窓会北本支部 (6)岩槻浦高同窓会 (7)久喜離和会 (8)春日部地区浦高会 (9)蕨浦高離和会 (10)川口離和会 (11)戸田離和会 (12)和光離和会 (13)志木離和会 (14)秩父浦高同窓会 (15)古河離和会 (16)東京浦高会 (17)湘南浦高会 (18)西浦高会 (19)奥行離和会 (20)蕨が離和会 (21)大成建設浦高会 (22)九州浦高会 (23)関西浦高会 (24)昭和大学医学部浦高会 (25)経産離和会 (26)三村会 (27)離和ゴルフ会 ※オプザーバー宇都宮離和会

◆なぜ、春日部地区なのか？

地域同窓会を作るに当たって、初代事務局長の三輪さん(16回)、副会長の鳥井さん(11回)、会計の田村さん(16回)が中心となって対象エリアを検討しました。また、埼玉東部地域全体で考えましたが、ちょうど1年前に久喜離和会が設立されており、岩槻市でも同窓会を模索する動きがあったことと、岩槻市には、春日部地区浦高会初代会長の石井さんと同窓の金子さんが非常に強いライバル関係にあり、岩槻市は別と考えました。

また、高校23回卒までは野田市からの越境入学者がいて、同じ東武野田線で浦高に通った仲ということもあり、何としても野田市の皆さんにも入ってもらおうということで、「春日部地区」という広いエリアを設定してスタートしました。そのため、設立当初は、春日部市・野田市・庄和町・杉戸町・宮代町でしたが、呼び掛けに応じて参加してくれた越谷市、松伏町、幸手市などの方々も含めています。(現在は春日部市と庄和町が合併し「春日部市」になっています)

◆ 設立総会

設立総会は、2001年9月1日(日)、市内の料亭・大塚で行われ、同窓会本部から高橋一郎会長、浦和離和会の星野和央会長ら9名のご来賓と33名の会員の中で総会が行われました。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

◇ 設立総会の記録から

春日部地区浦高会 設立総会を開催
会長に石井治氏

【総会後の集會写真とご来賓の方々】

【埼玉新聞・東部版への掲載記事、2001年9月2日】

※ 今回の講話にあたって当時の資料を探る中で新聞等を見つけた。お詫！

埼玉新聞や春日部市内のミニコミ紙でも設立の記事が掲載されました。それだけ、春日部市に浦高会ができたというのは大きなインパクトがありました。今回の講話にあたって当時の資料を探る中でこうした記事を見つけられたことに感謝です。

◇ ◇

3. 三顧の礼で迎えられて

◆ 設立時準備からの関わり

さて、私事ですが、市役所で用地買収の交渉などに行くと、「香田さんは春日部高校かい？」と言われて「違います」と答えると話さえてくれないというほど、20年前までの春日部市では「春日部高校にあらず者…」というような状況で、「浦和高校です」ということが憚られるような時期がありました。

現在でも春日部市役所には6人しか浦高卒業生がいないかもしれません。

5ページの上の図は、現在の27の地域職域同窓会の位置図です。県中央の点線が荒川左岸をエリアとする西部浦高会で、右側の点線が春日部地区です。

◆ 会報「喫茶去」づくり

設立総会のあと、当日の写真を皆様にお送りすることになり、その仕事を私が引き受けました。この写真とお礼状が、その後の会報づくりに繋がっていき、この時は予想していませんでした。



◆ 会報づくりの背景
私が43歳からA4判1枚に週1回のペースで綴っていた雑誌『三楽楽雑誌』がペースになっていきます。ですから、当初は春日部地区浦高会の記事以外のことも書いていたことが多々ありました。

◆ 会報「喫茶去」誕生
会報の名前を「喫茶去」の誕生は、2005年9月の総会で、三輪会長(前事務局長)の後任として私が事務局長をお引き受けしてからだと思います。外部の皆様にもお見せできる正式な会報にしようということで、「喫茶去」というタイトルを付けて発行を決めました。会報のタイトル「喫茶去」とは、「よう来た、どうぞお茶でも召し上げれ」という意味の禅語で、茶道の世界で使われている言葉です。春日部地区浦高会の奥さんが、どなたにも「ようこそお越しくださいました。どうぞゆっくりとお茶(お酒)を召し上げてください。」とおもてなしのできる会であり続けたいと願ひを申しました。

◆ 17年間で「喫茶去」は286号を発行

2001年9月に第1号を発行してから、2018年8月までに286号の会報「喫茶去」を発行してきました。当初は総会と賀詞交換会の様子だけでしたが、私の活動範囲が広がるとともに、百年の森活動、親睦旅行、同窓会本部の活動、春日部地区浦高会の地域貢献活動、同窓生の活動等も掲載させていただくようになりました。

Table with 18 columns (01-18) and 2 rows of numbers representing publication counts.

そんな春日部で「春日部地区浦高会」ができ、多くの先輩諸氏がいらしたというのは心強いものになりました。

そんな春日部地区浦高会に誘われたのは、前会長の三輪先輩でした。2001年の2月にお電話を2度ほどいただき、なかなか私が出る機会が無く、3回目のお電話でお話できたのですが、「香田さんは浦高卒業生ですよ」と言われて何と答えて良いものが、正直戸惑いました。すると、「私も浦高卒業生ですよ。」と思いがけない言葉が飛び出てきて、「春日部市で地区同窓会を立ち上げようと考えているのですけれども、お手伝いいただけますよね」と、仕事の関係で身近にお目にかかっていた方が浦高の先輩だったとは狐につままれたような感じでした。

その後、設立に向けて事務局のお手伝いをする中で、良く三輪さんからは「香田さんには“三顧の礼”をもって迎えたのですから、しっかりと働いてもらわなければ…」とされていました。

ご縁とは不思議なものです。準備会の中で存在感が大きかったのは、今でもですが、奥様から当日は「今日も浦高さんですか?」と言われるほど、同窓会活動に熱心だった鳥井先輩です。

3. 三顧の礼で迎えられて

◆ 設立時準備からの関わり

さて私ですが、冒頭にお話ししましたように、私は現在も春日部市役所に勤務しております。1979(昭和54)年に建築技師として入所した際、再開発事業や土地区画整理事業など市内の地主さんと用地取得の交渉をすることが多くありました。そんな中で、いろいろと話していくと、「香田さんは春日部高校かい?」と聞かれるのです。「いや〜」と否定すると、それ以降話の橋が断たれることが多々ありました。春日部市というのは、御存じのように「県立春日部高校」のお膝元であり、「春日部高校を卒業して有名私立大学に行った人たちが輪を有がせている」という町でした。市役所職員や部長さんたちにも、「春日部高校卒業生」が多く、「浦高高校卒業」と言うのが辱れるような時代でした。

春日部市役所の職員は、私が最初の浦高卒業生で、私の後輩でも5人しかおりません。浦高を卒業して市町村職員になるという時代でもなかったこともありましたが、そんな訳で、市役所入所後に自分から「浦高卒業生」であるということを出したのは、22年経って、春日部地区浦高会ができてからのことでした。

そんな春日部地区浦高会に誘われたのは、土地売買の交渉で面識のあった三輪さんからでした。三輪さんは、市内で不動産業をされており、春日部駅東口の土地売買の交渉をしようとする、必ずお目にかかっているような方でした。

2001年の2月だったと思うのですが、突然、市役所に三輪さんから電話をいただきました。2回ほどお電話をいただいたのですが、私が不在でお話することができませんでした。私から折り返しても、先方が不在ということで、3度目の正直でお話することができたのが、3月に入ったことだったと思います。

「香田さんですか。こんにちは三輪産産の三輪です。突然のお電話で失礼ですが、香田さんは浦高卒業生ですよ」というのが開口一番のお話だったと思います。何度かお目にかかっている三輪さんから突然、高校の話が切り出されたので、私もあいまいに「ええ、まあはい」とお答えすると、「私も浦高卒業生なんです。15回です。香田さんは?」「いや〜、昭和48年3月卒業ですが、回数はい覚えていません」「私が38年卒ですから、25回ですね。実は、春日部市で地区同窓会を立ち上げようと考えているのですけれども、お手伝いいただけますよね」というような話があり、身近にお目にかかっていた方が浦高の先輩だったということを知ることが、その時は狐につままれたような感覚を覚えました。良く三輪さんからは「香田さんには“三顧の礼”をもって迎えたのですから、しっかりと働いてもらわなければ…」とされていました。

それがご縁となり、何度が打合せをしていく中で、設立総会に向けた資料づくり、呼掛け状の送付など、さまざまな仕事をさせて頂きながら先賢たちの姿を見ていただきました。そうした設立時の先輩たちの姿を見ていたので、私にできることをやらせてもらおうと思ったのも、この準備期間での苦労があったからだろうと思います。特に、奥様から「今日も浦高さんですか?」と言われるほど、浦高同窓会の活動に熱心な鳥井さんの存在は大きく、私も良い勉強をさせてもらいました。

◆ 会報『喫茶去』づくり

設立総会のあと、当日の写真を皆様にお送りすることになり、その仕事を私が引き受けました。この写真とお礼状が、その後の会報づくりに繋がっていくのです。もともと『夏炉冬扇』という日記を綴っていたことで、記録することが好きだったということが大きな要素ですね。

◆ 17年間で「喫茶去」は286号を発行

実は、17年間で286号を綴ってまいりました。最近は何年30号から40号を綴っています。最初の頃は総会と賀詞交換会の様子だけでしたが、私の活動範囲が広がるとともに、百年の森活動、親睦旅行、同窓会本部の活動、春日部地区浦高会の地域貢献活動、同窓生の活動等も掲載させていただくようになりました。



4. やるからにはみんなが楽しい活動を

◆ 親睦を深めた4年間

それでは、春日部地区浦高会の17年間の活動を振り返ってみたいと思います。

◇ 総会と賀詞交歓会、ゴルフコンペ

最初の4年間は、年1回の総会と賀詞交歓会、それと年2回のゴルフコンペで会員相互の親睦を図るための活動でした。

◇ 事務局会議

ただ、当時の三輪事務局長を中心とした事務局会議は2か月に1度くらいのペースで開かれており、本部の常任理事を務められていた鳥井副会長がさまざまな情報を提供してくださったり、同窓会の動きや他地域同窓会の活動などに触れることができました。

◆ 春日部地区浦高会の転機は石井(中48回)会長から三輪(15回)会長へ

春日部地区浦高会の大きな転機は、創立から5年目を迎える2005年度9月総会前のことでした。

